

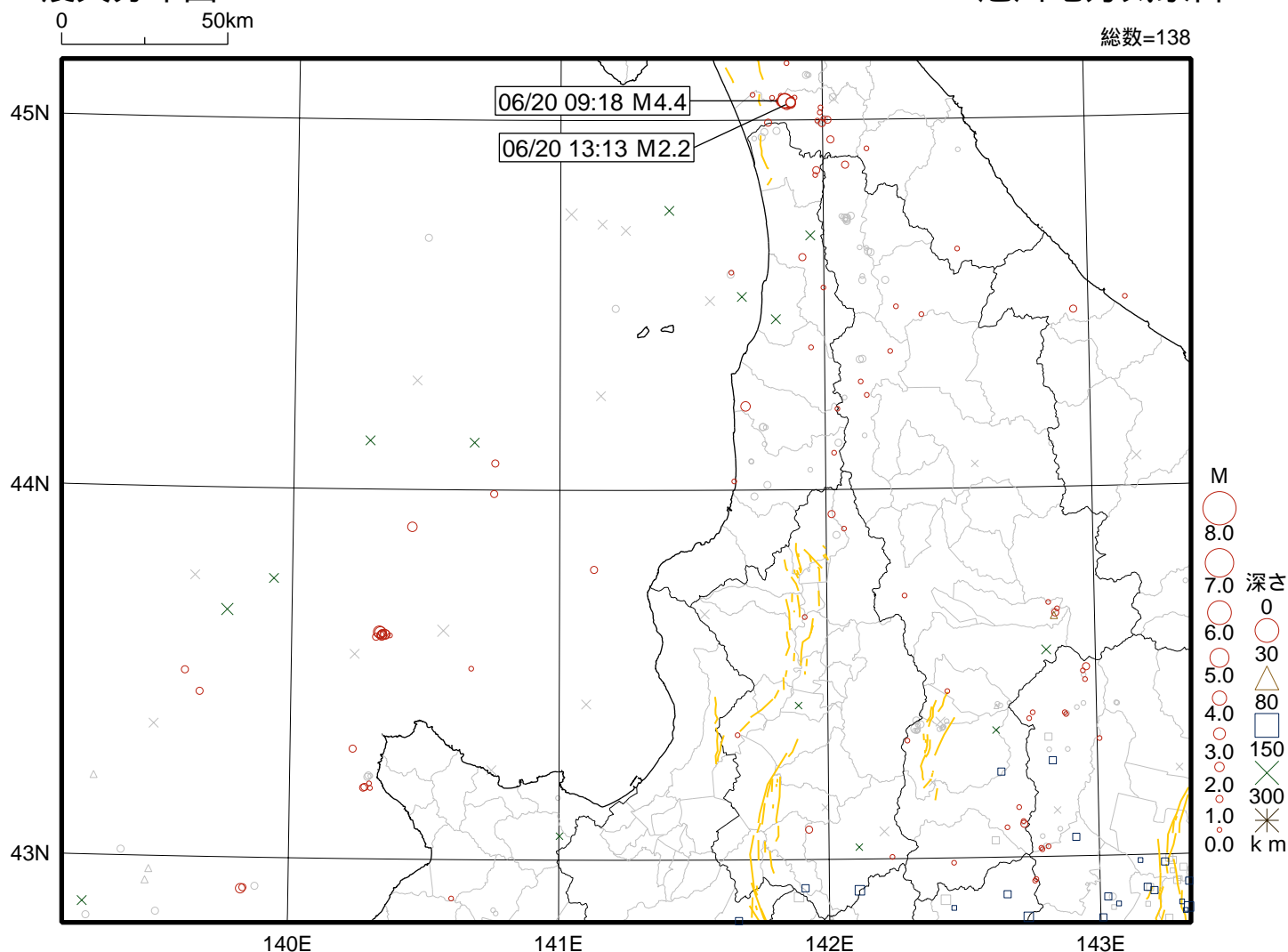
上川・留萌地方の地震活動図

2022年6月1日～2022年6月30日

震央分布図

旭川地方気象台

総数=138



地震概況（2022年6月）

この期間、上川・留萌地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は2回（5月はなし）でした（「上川・留萌地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

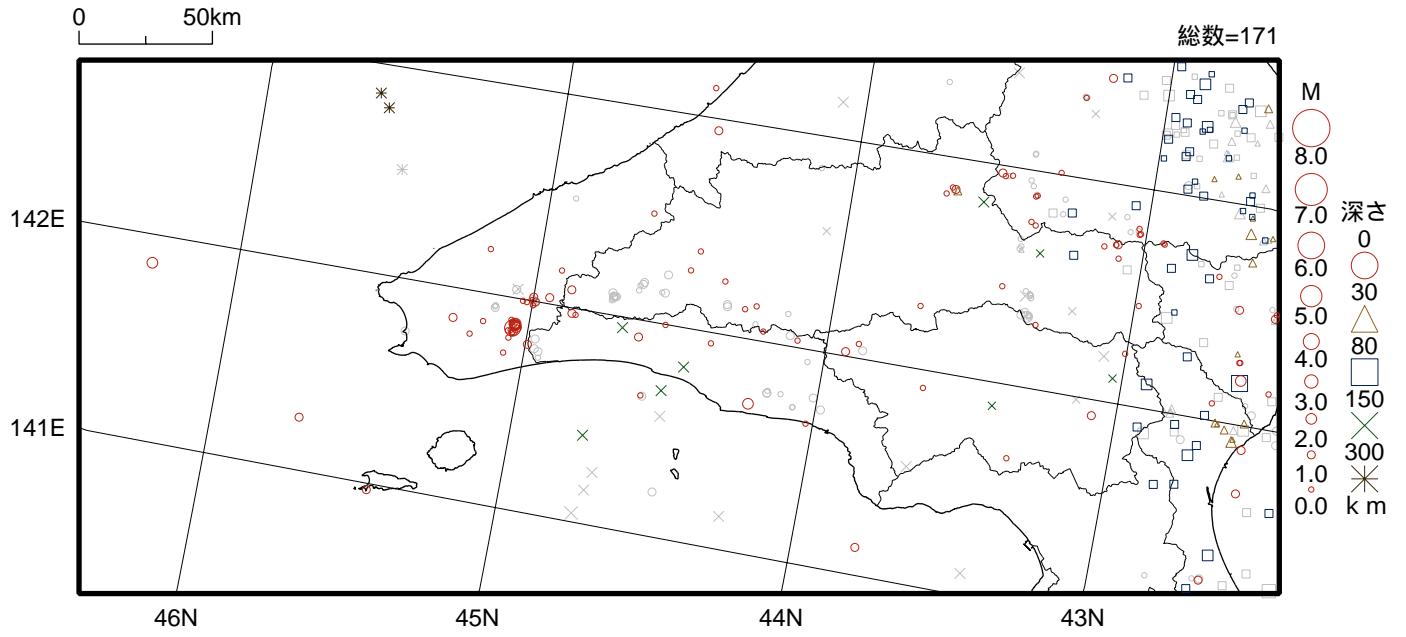
20日09時18分、宗谷地方北部の地震（M4.4、深さ10km）により、天塩町で震度4を観測したほか、上川・留萌地方で震度2から1を観測しました。また、同日13時22分にも地震が発生（M2.7、深さ8 km）し、天塩町で震度1を観測しました。

20日09時18分の地震に関して地震解説資料を公表し、下記に掲載しています。

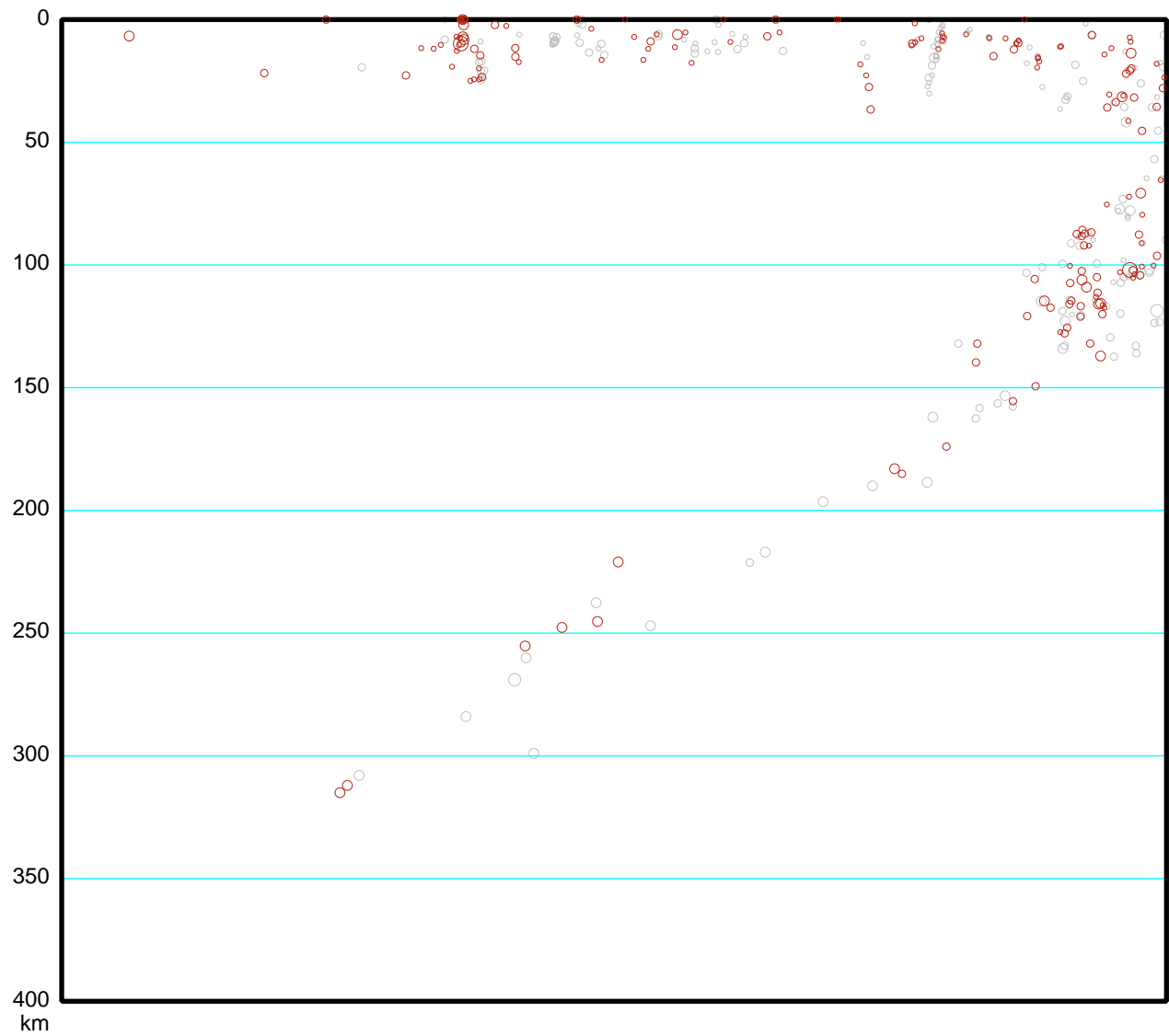
https://www.data.jma.go.jp/asahikawa/shosai/jisin/gaiho_file/20220620souyahokubu.pdf

2022年6月1日 ~ 2022年6月30日

震央分布図



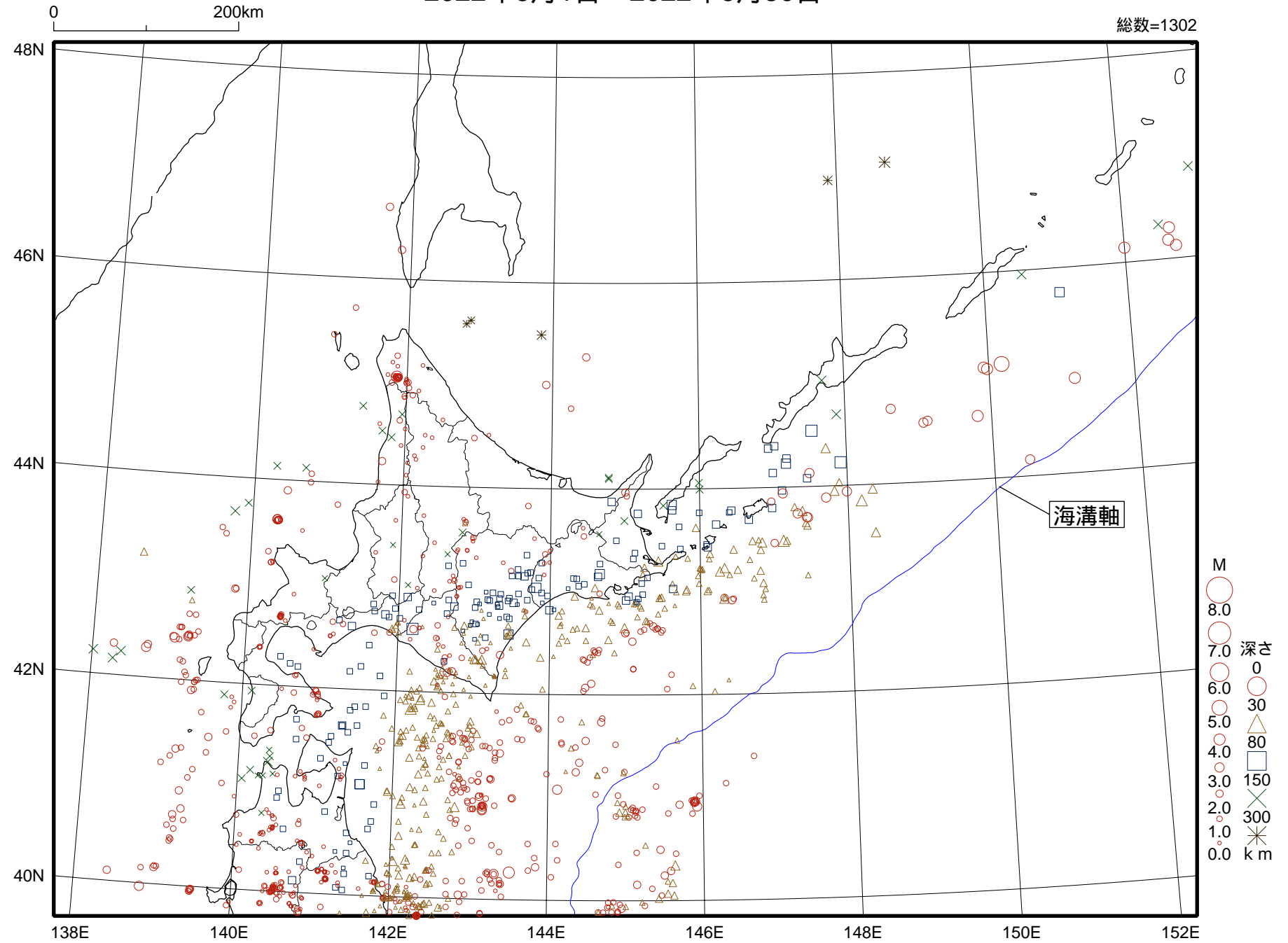
断面図



北海道の地震活動図

2022年6月1日 ~ 2022年6月30日

震央分布図



上川・留萌地方で震度 1 以上を観測した地震の表 (2022年6月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (km)	規模 (M)
2022年 6月20日 留萌地方	09時18分 震度 4	宗谷地方北部 天塩町川口 * (35)	45° 03.1 N	141° 51.3 E	10 km	M4.4
上川地方	震度 2	遠別町本町 * (15)				
	震度 2	上川中川町中川 * (19)				
	震度 1	音威子府村音威子府 * (10)				
2022年 6月20日 留萌地方	13時22分 震度 1	宗谷地方北部 天塩町川口 * (05)	45° 02.4 N	141° 51.8 E	8 km	M2.7

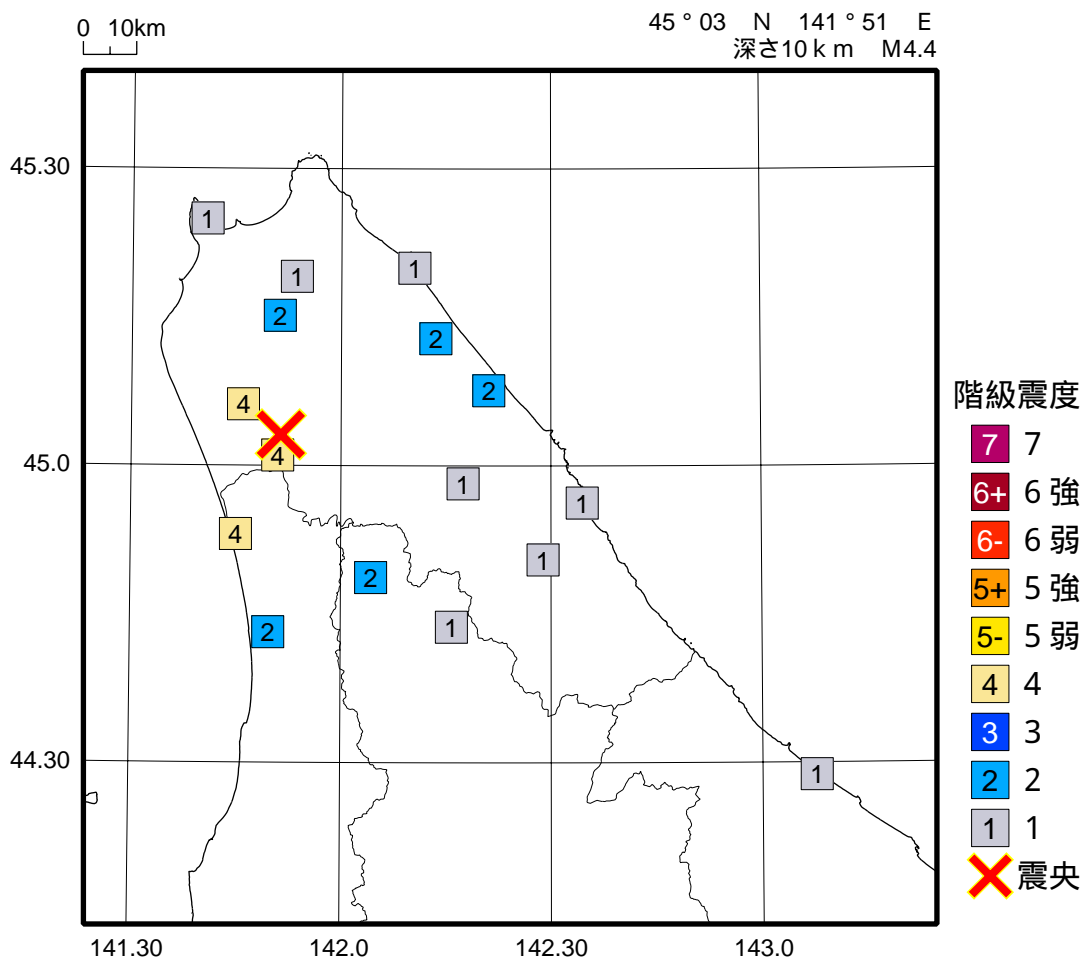
*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度 (計測震度) の小数点を省略して表しています。

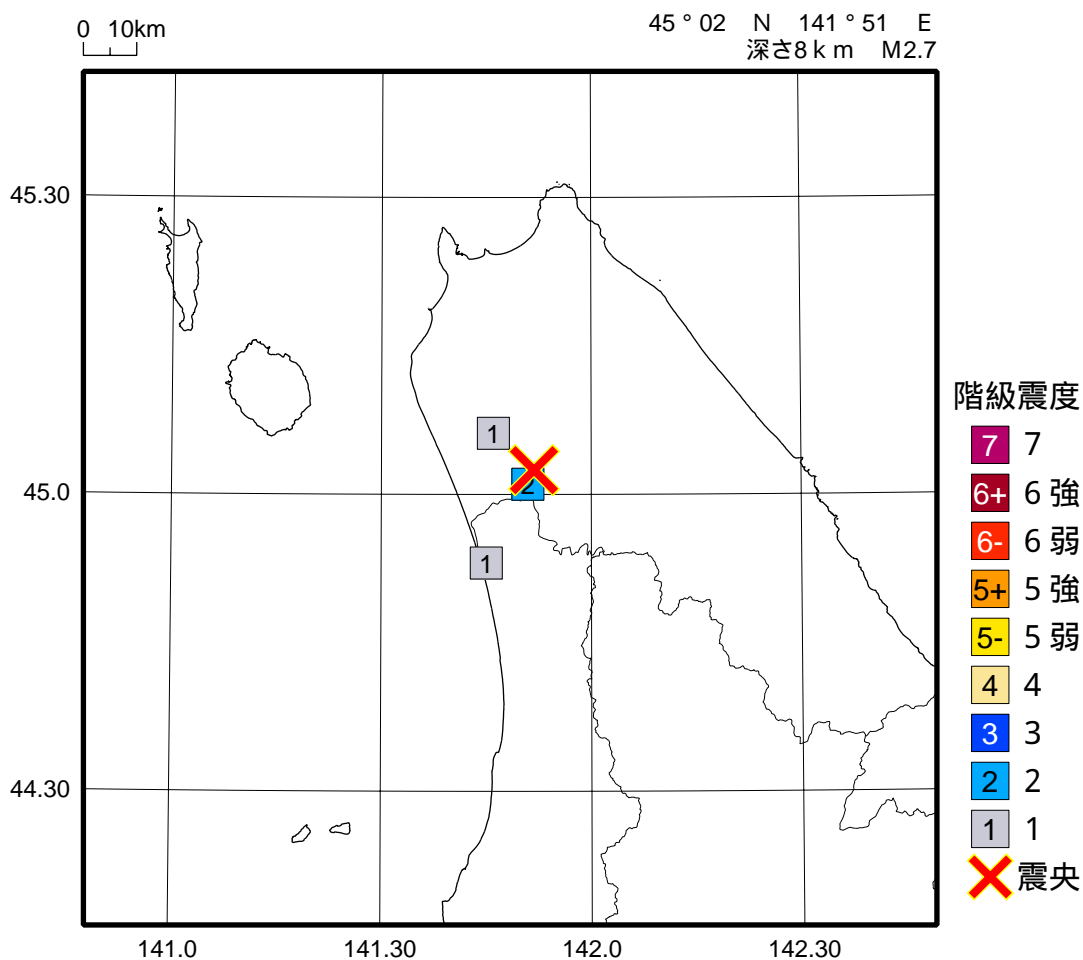
計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

2022年 6月20日09時18分 宗谷地方北部の地震の震度分布図



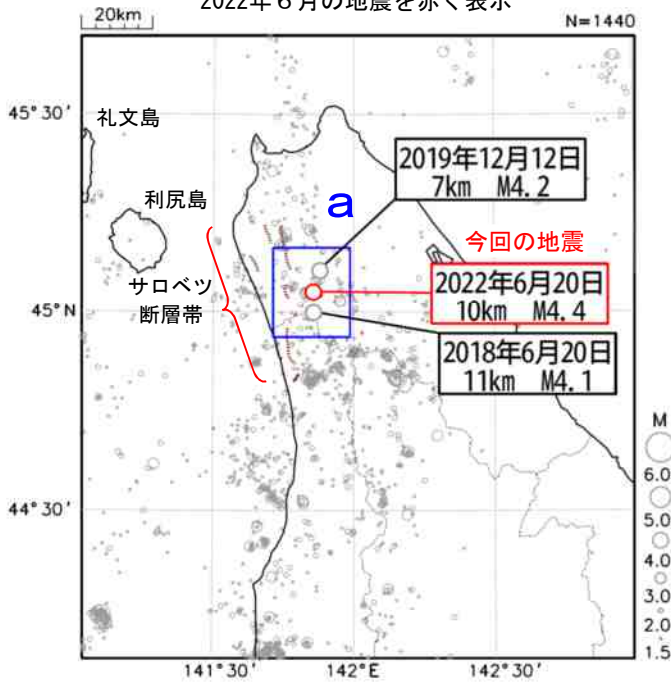
2022年 6月20日13時22分 宗谷地方北部の地震の震度分布図



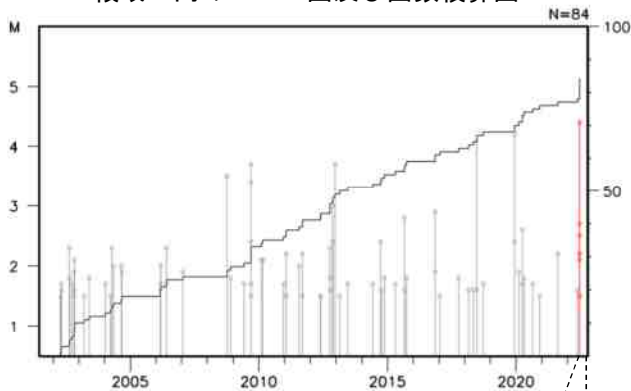
6月20日 宗谷地方北部の地震

震央分布図

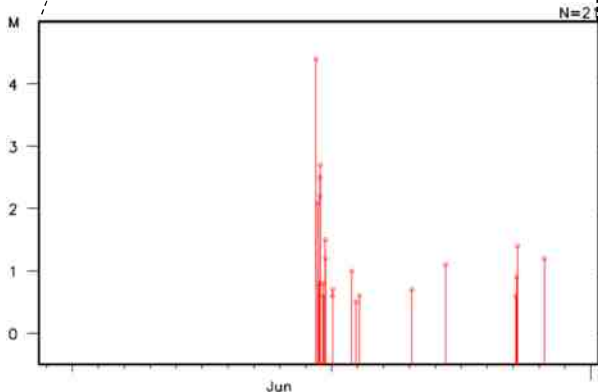
(2001年10月1日～2022年6月30日、
深さ0～40km、M \geq 1.5)
2022年6月の地震を赤く表示



領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



領域 a 内の M-T 図
(2022年6月10日～6月30日、M \geq 0.5)



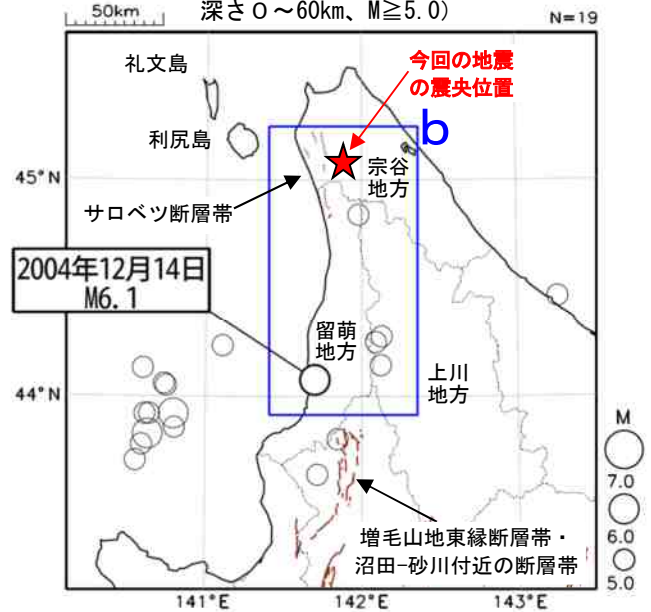
2022年6月20日09時18分に宗谷地方北部の深さ10kmでM4.4の地震（最大震度4）が発生した。この地震は地殻内で発生した。今回の地震後、震度1以上を観測する地震が同日中に4回発生している。

2001年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）では、M4程度の地震が時々発生している。直近では、2019年12月12日にM4.2の地震（最大震度5弱）が発生した。

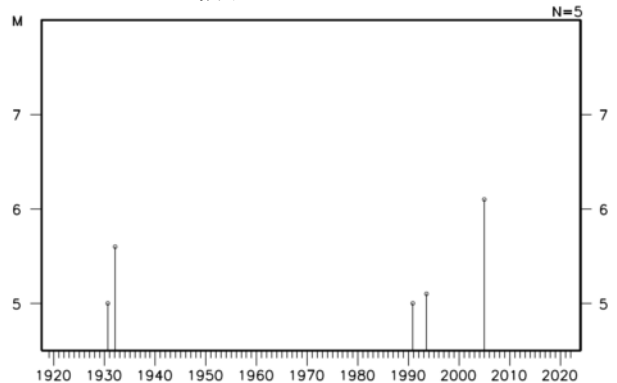
1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M5.0以上の地震が5回発生している。このうち、2004年12月14日にはM6.1の地震（最大震度5強）が発生し、軽傷者8人、住家一部破損165棟の被害が生じている（「日本被害地震総覧」による）。

震央分布図

(1919年1月1日～2022年6月30日、
深さ0～60km、M \geq 5.0)



領域 b 内の M-T 図



图中的茶線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

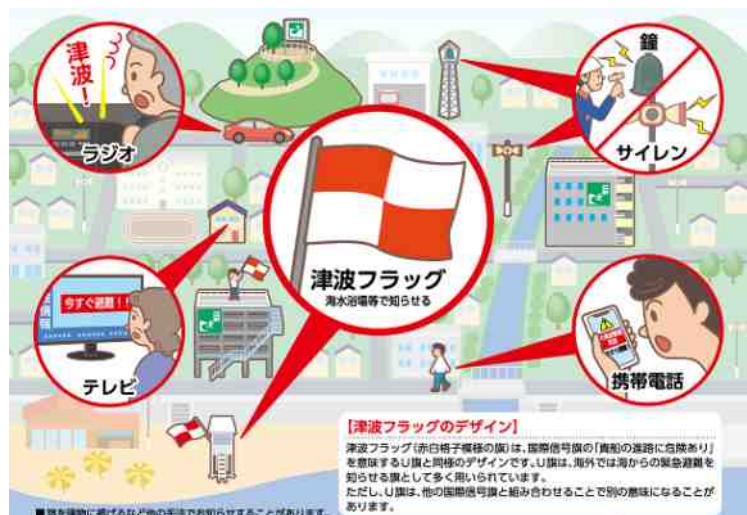
本資料の利用にあたって

- ・ 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

【防災メモ】

～「津波フラッグ」による津波警報等の視覚的伝達～

津波警報等（大津波警報・津波警報・津波注意報）は、テレビやラジオ、サイレン・鐘、携帯電話等、様々な手段で伝達されますが、令和2年夏から「津波フラッグ」による視覚的伝達が行われるようになりました。「津波フラッグ」は、聴覚障害がある方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方などにも津波警報等の発表を視覚的にお知らせするものです。海水浴場や海岸付近で津波フラッグを見かけたら、速やかに避難してください。



●津波フラッグのデザイン

津波フラッグは、視認性や色覚の多様性を重視した上で外国人へも配慮し、海からの緊急避難を知らせる意味で海外でも用いられている「赤と白の格子模様」の旗としています。この旗は、国際信号旗の「貴船の進路に危険あり」を意味するU旗と同様のデザインです（ただし、U旗は他の国際信号旗と組み合わせることで別の意味になることがあります）。

●利用上の注意点

- 津波フラッグが用いられる場所は、海水浴やマリンスポーツなどを行う人がいる海水浴場等の海岸です。
- 津波フラッグの掲示は、砂浜や海水浴場の監視台等においてライフセーバーや監視員が振る、監視台や海岸沿いの施設に掲示するなどの方法が用いられます。
- 津波フラッグの伝達実施者の安全が確保されない場合、津波フラッグの掲出は行われません。
- 全国的には、海水浴場での津波フラッグの導入は少しずつ広がりつつある状況ですが、津波フラッグが導入されていない海水浴場や、運用されない時間や期間もあります。
- 海水浴場で強い揺れや弱くとも長い揺れを感じた後は、津波フラッグを見かけずとも、速やかに海辺から離れ、より高い安全な場所へ避難してください。

●参考 URL（気象庁 WEB サイト）

- 津波フラッグの解説：

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html

- 津波フラッグに関するオンライン講演会（令和5年3月末まで（予定））：

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami_bosai/lecture.html